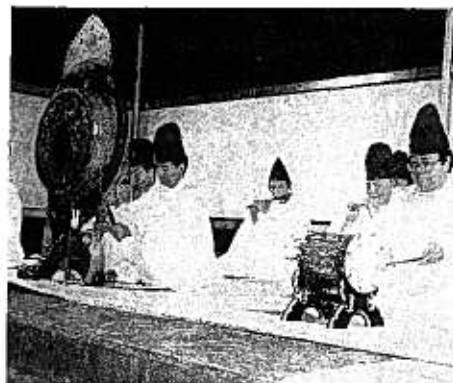
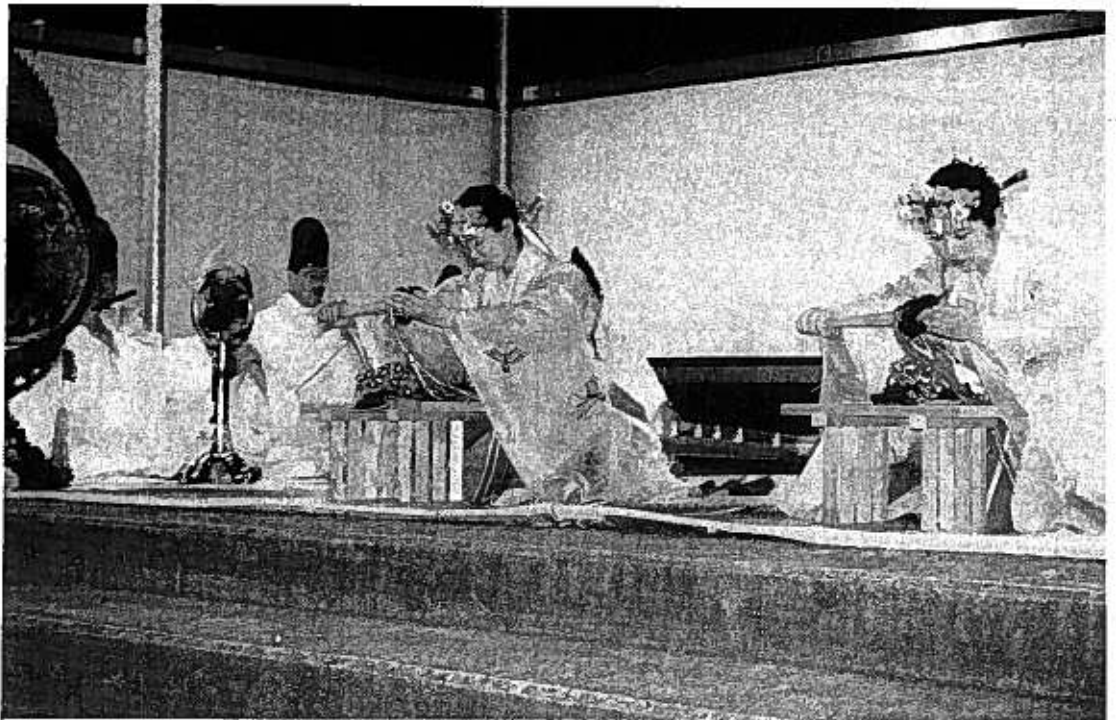


# 第三十号

# 若 竹



「観月の神楽の夕べ」  
昨年  
の  
「観月の神楽の夕べ」  
川之江八幡神社  
庁、川之江支部

平成七年 四国四県神道青年会

合同研修会 日程

八月二十三日、二十四日 於、松山国際ホテル

テーマ

終戦五十年を迎えて、「神近代神社制度の再評価」

講師 國學院大学教授 阪本 是丸 先生 (45才)

二十三日	
12:30	受付
13:30	チェックイン
13:30	
14:00	開講式
14:00	正式参拝
15:30	護国神社
15:30	
18:00	講演
18:00	懇親会

二十四日	
9:30	朝食、エト ツックアウト 済ませ集合
9:30	
11:00	講演
11:00	閉講式
11:30	
	希望者のみ 初日に募集
	引続き 昼食後、 松山観光

正式参拝時、護国神社宮司様に、社頭講話を戴きます。

スケジュールは、都合により変更することがあります。

平成七年度 神道青年会

四国四県合同研修会

御案内

会員の皆様、平素より神道青年会に御協力下さりありがとうございます。さて毎年夏に開催される、

四国四県神道青年会の合同研修会、今年は愛媛県にて行われます。今年には終戦五十年を迎え、

英霊の御霊を御慰め申し上げると共に、各界より様々な意見が出されることと存じます。しかし、我々国民は、一人一人その知識や情報の量がまちまちであり、マスコミに於いても、侵略か否かの表現しかせず、その論拠はとりざたされる事は大変少ない様です。

神道に於いても様々な論議がなされております。青年神職の皆様はよく御理解とは存じますが、その知識を一層深め、「私の意見はこうだ」とさらに明確に答えることの出来るよう、同時に、我々の先代が、戦前戦中戦後をどのように過ごしたのか、当時の神社制度、を学びたいと考え、プログラムしました。

後日、全会員に御案内を差し上げます。多数御参加下さいますよう、御願致します。

問い合わせ・御申し込み先 千七九〇

松山市居相町三三七

椿神社内 真鍋豊孝副会長

電〇八九九一五六一〇三二一

FAX 五六一三三三三三

参加者へは、神社庁研修会修了証が発令される予定です。

尚、神青会員は、

○参加費

○懇親会費

○宿泊費

を、当会にて負担します。

二次会等は御負担下さい。

# 阪神大震災（淡路島）

## 支援活動報告

飯尾 真通

忘れもしない一月十七日、未曾有の大震災が阪神地方を襲った。

丁度目を覚ましてベッドから出たところだった。尻の下が大きく揺れて、体も動いた。急ぎテレビをつけると、淡路島が震源地だと放映している。



駄目だったそうだが、体には異常ないとの事。最初の一軒は全壊に近い半壊。家族の者も、埋もれていたのを助けられたそうです。

このように私自身の身内を例に挙げてみても、被害は甚大なものがあり、被害は時間を追う毎に酷くなる。神社関係も相当な被害であった。

二月二十日、神青会長より、被害地支援活動の要請があり、参加しました。それまでに、御田村地区理事は淡路島へ数度足を運ばれて視察されていたそう。

淡路島に於いては、伊井 諾神宮 祢宜の本名様の御世話に依り、御田村地区理事の指

導のもとで、先ず現状の把握をしなければならず、各単位毎に数名のグループを組み、各社頭を視察しました。  
三月七日八日には愛媛神青より十数名の参加を得て、千葉神青、千葉県神道政治連盟の方と共に支援活動を行いました。

支援活動は、崩壊した社殿等の撤去作業等の事でした。時間など様々な面での制約が多い中でしたが、精一杯させて頂きました。

被災されました皆様方に、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。





# 神青協 二月十三日

## 平成六年度 臨時總會報告

### 北方幸彦 神青協新会長決定!!

#### 飯尾 真通

平成七年二月十三日(月)午後二時半より神社本庁二階大講堂に於いて臨時總會が行われました。

平成六年度神青協会務報告を行った後、神青協に於ける阪神大震災対策に関して、それぞれの討論がなされました。この時点で被災地の状況は、



北方 新会長

大まかな形での把握が出来ていましたので、各単位会が必要素と思う道具を持参して、合同で援助活動を展開する。という形になり、三月七・八日の二日間という日程も定められました。

各単位会に震災の対策本部を設けて、被災地の要望に従い能力に応じた形で出来る限りの事を行う為に特別会計を設けて、かかる費用を捻出する。という事を全会一致で採択されました。

神青協も年度が変わり、西高辻会長退任、北海道神道青年協議会より、北方幸彦氏が推挙され、平成七年度より神青協会長として就任する事となりました。

# 神道青年全国協議会

## 定例總會開催

四月十九日

於、神社本庁

神青協役員に、四国ブロック

香川、池田 新、指名理事、

徳島、藤本 新、地区理事 就任

表記の如く神青協の定例總會が行われ、愛媛からは武智会長、真鍋副会長、御田村地区理事が出向した。

總會に於いては、阪神大震災への神青協の対応の報告がなされ、特に淡路島への支援は、四国神青へ一任であったので、御田村地区理事より報告がなされた。

その他、予算決算の承認、各報告、検討事項が審議され、

各地各県の事業への表彰も行われた。

事業表彰の部

福島、神社実務ファイル

京都、平安遷都千二百年

記念フォーラム

東京、海外戦没者慰霊祭

三重、長年に渡る、

チャリテイバザー

宮崎、長年に渡る、大寒燂

優秀会報の部

京都、三重、奈良、東京、

以上の各神青会が表彰された。

又、神青協の役員任期が終了した為、改選が行われ、香川、池田博文新指名理事、徳島、藤本久吉新地区理事、が就任した。



御田村 前地区理事

## 平成六年度

神青協夏期セミナー  
国学院大学にて

飯尾 真通

去る八月三十日から三十一日の二日間、国学院大学を会場として百三名の参加者を得て夏期セミナーが開催された。

今年のテーマは「祭りの伝承を考える」で、本会四十五周年に際して、青年神職の原点に立ち返ったテーマ設定がなされ、一般社会は許より神社の伝統行事も変化し、又は失われてゆく現状を憂いている中に於いて、我々は一体どの様に於いて、我々は一体どう又現代に適應した祭りを行ってゆくべきかを、そして文化財保護との関連を一つの視点に据えた討議がなされました。

第一日目は、弘前大学教授 島山篤先生より、「祭礼行事の今日の問題」と題して、沖繩久高島のイザイホーを例

として、社会構造の変化が、統的祭儀に及ぼす影響についての諸問題の御指摘を頂きました。

国学院大学教授・中西正幸先生より、「近代の祭祀理念」と題して、日本の近代化過程の中にあつて祭祀構造がどのようにして変化してきたかを、明治神宮御改正を例として、近代と伝統との相克を巡る問題の御指摘を戴きました。その後、島山・中西両先生の御発題を元に、皇學館大学教授・櫻井治男先生が司会をなさり、前出の両先生、京都大学教授の藺田稔先生、国学院大学教授・岡田莊司先生、神青協・西高辻会長の参加を得てパネルディスカッションが取り行われました。ここでは特にそれぞれの社

会構造の変化に依つてもたらされる伝統的祭祀の変容に、どのように対応すべきであるのか。といった問題が討議されました。時代の流れと共に祭りも変化して行くのであれば、むやみにイベント的な祭りをするのはなく、次世代へ継承して行く義務を我々は負っているのだから、それぞれの地域文化の理解をより深めて行くと共に、その地域との連帯も一層深めて行かなければならない。といった結論が出されました。

二日目はそれぞれ三つの分科会に分かれました。

第一分科会では「祭りと文化財」というテーマのもと、神青協鈴木理事を座長に、国学院大学日本文化研究所助教 授茂木栄先生を助言者に迎えて文化財指定を巡る様々な問題点が討議されました。

第二分科会に於いては「祭りと現代社会」とのテーマで神青協石原教化委員長を座長に、江戸川女子短期大学助教 授宇野正人先生、神社本庁研究所茂木貞純先生を助言者に

迎えて、衰退してゆく伝統的祭儀をどの様にして現代的に再生させてゆくべきかそして、第三分科会では「祭りの再生」がテーマに据えられて、神青協後藤教化副委員長を座長として、国学院大学助教石井 研士先生、皇學館大学神道研究所講師牟禮仁先生を助言者に迎えて社会構造の変化に対応する伝承者の育成と、組織化について討論されました。

その後、各分科会座長より、十分程度の報告が行われ、最後に国学院大学教授上田賢治先生より本セミナーの総括を戴いた。その中で祭りに音ける女性の積極的参加、祭りの意味を神学的に明らかにする必要性、神職子弟の祭りへの体験参加、祭りを単に形式の継承に止めず、あくまでも信仰の継承としての自覚を高める必要性等々の言葉を戴きました。



# 『日本を守る会』

## 四国大会に出席して

西条市 檜本神社 禰宜

### 寺内聖隆

昨年九月六日、松山市民会館にて標記の会が催された。

折柄の少雨長時間断水の中、今回は愛媛県神社庁が幹事組織となり、四国四県の神社関係者を始め協賛宗教団体等の参加を得て、大ホールをほぼ満席にして、第一部式典、第二部記念講演、第三部清興の構成にて進められた。私は、愛媛県神道青年会の一員として、武智会長の御指示の下、受付のお手伝いをしたのだが、第二部の頃には手隙となり、記念講演を拝聴する事が出来た。

本に記しておく。

一、今日の平和と繁栄は、多くの英霊の尊い犠牲によつて築かれている事。

一、終戦五十年に当たり、英霊に対し、心から追悼と感謝の意を表する事。

一、国家、民族の名譽を回復すると共に、新憲法を制定し、

### 装束祭具の御下命は

## (有) 竹重

京都中下京区西洞院花屋町上ル  
電話 (075) 710-2940  
FAX (075) 711-6966  
振替口座京都六一二四二二

我が国体に則り、日本の無窮の發展と世界の恒久平和確立の為努力すること。

第二部の記念講演は、元高千穂商科大学教授の名越二荒之助先生により「世界に生きる日本の心―大東亜戦争の果たした役割を中心に―」と題して、沢山のスライドを使つて行われた。

その主題は、「日本と世界の個別性と相関関係を深く見通し、悠久なる我が国の歴史を貫いてきた主題は何であったのか。そのエキスを集約すれば何であるのか。そして日本人がこれから世界に貢献すべき使命は何なのか。」を明らかにするという事である。会の主題へのアプローチとして、主にアジアに於ける大東亜戦争の遺訓という観点から講演をされた。

冒頭、我が国・日の丸と、緑地に日の丸のバングラディシユの国旗、青地に満月を描いたパラオ共和国の国旗を示して、これらは大東亜戦争に於いて、アジアの植民地解放の為、死力を尽して戦つた日

愛媛県神道青年会  
「若竹」印刷

## 首藤印刷所

愛媛県西条市大町一五二七  
電話〇八九七―五五―二八九

本を範とすべく制定された、と説明された。殊にパラオの国旗に就いては、沖山豊美という日本名を持つ女史の談話を交え、詳しく説明された。要点はこうである。

現地人達は、約四百年に亘つて外国統治に置かれた中で、日本の委任統治時代が一番良かったと回顧している。またペリリュー島では、大戦中抗戦七十余日の末、九千数百人の日本人が玉砕したが、その勇猛果敢な戦闘ぶりへの敬愛の念は今猶深く、日本を太陽、自国を月に見立て、日の丸を模して、海を表す青地を併せて国旗を制定した、と。次に、各国の世界史教科書を示し、これらを通して、外

国が日本をどのように見てい  
るかを述べられた。

即ち各国の教科書には、日  
本で取り挙げられない我が国  
の個性や特徴を、簡明に記し  
た物が多く見られるとして、  
米国の其の、記・紀に基づく  
神話的世界、国号「日本」及  
び建国の起源、日露戦争の積  
極的意義等の記述を紹介され  
た。

茲に私は、雑誌「動向」に  
連載された作家豊源太氏の「  
維新政党待望論」の一文を想  
起した。

「(今の私達日本人は) 既成  
政党の手先たる日教組に教育  
され尽くした結果、米国人以  
上に民族性を欠き、そのこと  
が国際的であると履き違え、  
古事記や日本書紀の雄大なる  
浪漫が自らの血となつて脈打  
っていることを、完全に忘れ  
去っているのではないでせう  
か。(中略) 「歴史を遡ると  
神話の世界に至るといふ事は、  
何と素晴らしい事だろう」と  
は、ストロースの言ですが、  
私達は天皇を戴く事に依り、  
歴史を遡る事が出来、日本歴

史はなに一つ寸断される事な  
く浪漫溢れる神代の世界に流  
れ込むといふ、世界に類稀な  
る素晴らしさを持つのです。

先生は更に、自国の国名、  
国旗、国家などの意味を解さ  
ない日本人が余りにも増え、  
海外に出て質問されても答え  
られず、「国際人」として恥  
を搔く者が多く居るといふ事  
で、新日鉄能力開発部は、「  
日本」その姿と心」といふ本  
を発行し、海外勤務者の必携  
としたと述べられた。(学生  
社・昭和六十三年第三班、日

お守りの御下命は

## 水戸奉製

〒三二一四  
茨城県水戸市中丸町四八六一五  
電話〇二九二一五二一七五六三  
FAX 五五二二三三二

鉄ヒューマンデベロプメント  
著、千四百円。類書紹介Ⅱ丸  
善、「日本の心」1、2 新  
日本製鉄秘書部広報室編 平  
成四年)

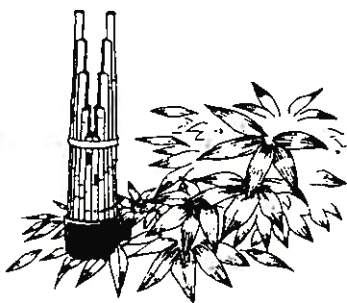
また、対戦中敵国であった  
英国の首相チャーチルが、自  
著の回顧録で、日本海軍軍人  
の武勇を讃えている例を紹介  
された。

その軍人は、昭和十七年、  
日本から一万数千キロの、イ  
ンド攻略の要衝地マダガスカ  
ル島の北端にあったデイゴ・  
スワレズ軍港に、荒波を乗り  
越え特殊潜航艇を潜入させ、  
攻撃完遂の後、艇を離れ上陸  
し、敵陣に切り込んで行った  
というものであった。

この他に二、三の例を挙げ、  
「戦争の悲劇の中にも、調べ  
て行けば多くの感動の美談が  
ある。四国に関係のあるそう  
した美談を蒐集して、一冊の  
本にしたらどうか。」と提案  
された。

更に東郷ビルに象徴され  
るフインランドの親日感情、  
杉並区蓮光寺に眠る印度独立  
運動の英雄チャンドラー・ボ

ースの事、神風特別攻撃隊と  
マバラカットの記念碑の事な  
ど、予定の一時内には収ま  
り兼ねる程の事例を示された  
締め括りの言葉として、先  
生は次の様に言われた。「政  
治家を持つ事は出来ない。自  
らの力で焦眉の問題「反省の  
謝罪の国会決議」を阻止し、  
次に自主憲法を制定し、もし  
靖国神社への天皇陛下の御  
親拝を仰ぐまで運動を高めよ  
うではないか。」  
多くの示唆と感動に溢れた  
講演であったことを記して、  
聴講記とする。





表紙参照

# \* 観月神楽の夕べ \*

この催しは、氏子崇敬者の皆様の雅楽への御理解を戴き、各神社の発展、ひいては神社神道の隆昌を目指し行っております。

昨年は

川之江支部にて

開催!!



昨年の司会 竹内 敬 会員

恒例の「観月神楽の夕べ」

昨年は、神社庁、川之江支部が受けて下さりました。

厚く御礼を申し上げます。

日時 昨年 八月九日

御引受 神社庁 川之江支部

支部長 熊本光栄殿

奉納社 川之江市 八幡神社

宮 司 竹内光彦殿

## 新入会員御紹介

原八幡大神社 禰宜 矢野 敬陽 君

タカアキ

生年月日

昭和四十年九月六日

自宅

越智郡吉海町仁江一〇六五  
電〇八九七一八四二二八九五

\*一言コーナー

始めまして、

何も判らない若輩者ですが、

宜しくお願い致します。



一神社でなく、支部として

御引受下さることとなり、準備や人集めも、支部として行われ、多数の方々の御参集を戴き、又、御多忙の中、多くの方々の御奉仕を賜り、盛大に催すことが出来ました。

御奉仕の皆様方、本年も宜しく御協力を御願致します。

「尚、神楽演奏の皆様、巫女の皆様は御奉仕下さっております。謝礼、交通費などは一切不要です。」

開催期間は、八月中旬より、九月中旬の間で、夏祭り等の都合の良い日を御選び下さい。支部にてお受け下さいましても結構です。

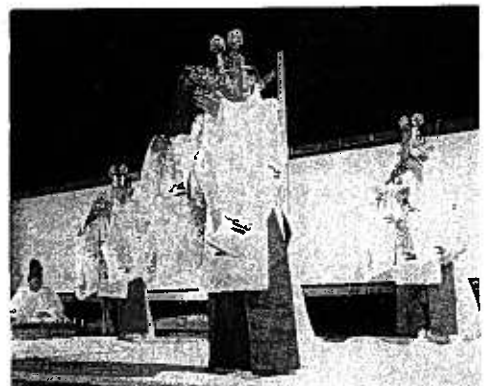
### 御願

ただ今、「観月神楽の夕べ」

を開催させて頂く支部、神社の御受け入れを御願ひしております。

ぜひとも御協力下さいますよう、御願ひを申し上げます。

御一報下さい。



「尚、神楽演奏の皆様、巫女の皆様は御奉仕下さっております。謝礼、交通費などは一切不要です。」

開催期間は、八月中旬より、九月中旬の間で、夏祭り等の都合の良い日を御選び下さい。支部にてお受け下さいましても結構です。

開催をお考えの方、御説明に参上致します。

松山市 椿神社内

真鍋 豊孝 神青副会長まで

御一報下さい。

電〇八九九一五六一〇三二二



# \* 伊予の椿 \*

## (自然と野生蘭より)

我々の住んでいる伊予の国(愛媛)には樹齢一〇〇〜六〇〇年と言われる銘椿が各地にあり、県(5)市(9)町(9)の天然記念物に指定されている。松山市に於いては昭和四十七年に市花指定して同五十六年にはアメリカのサクラメント市と姉妹都市の協定を結んだそうである。

日本人にとって桜と同様に親しみの深い植物で、照り輝く葉を付け、寒さにもじつと耐えて春を呼ぶ事から、木偏に春の字を当てた国字「椿」が考え出されたとされる。

又長寿、長命を言寿ぐことを「椿寿」と言い、俳人・高浜虚子の忌日は「椿寿忌」というそうである。

また我々も良く知っている松山の「伊豫豆比古命神社」では、正式名称より、「椿さ

ん」の愛称の方が良く知られていて、境内にも椿が花を咲かせているのを目にする事が出来、「椿祭り」が終わると共に、伊豫路には春が訪れる。道後温泉では伊豫国風土記に依ると、聖徳太子が道後の温泉に來遊され、温泉の靈験と椿樹の森の荘厳さに心を打たれ、その感嘆を石に刻んで湯岡の碑を建立されたと言われている。

伊予で発見された椿を「伊



酒天童子

予椿」と呼び、愛好者も多い。松山市の農業指導センター(北梅本)では、日本種五百種、洋種二百種約二千本が植えられていて、「小松姫」「肱川紅」「伊予陀心」「石鎚」等愛媛県の地名を冠する伊予椿二九種もある。

伊予人は事ある毎に三大椿、五大椿、十大椿と銘打って銘椿をあげる。大洲市袖木の如法禪寺(大洲藩主加藤泰興公の菩提寺)の境内で二本並んで妍を競っている樹齢約百三十年の「酒天童子」と約二百年の「五色八重散椿」(いづれも県指定の天然記念物)は何れ劣らぬ銘椿である。

また、松山を流れる石手川の上流、河中町の両新田神社



小松姫



伊予路に春を呼ぶ  
伊予豆比古命神社  
の大祭 椿さん

には「新田椿」(別名「お杖椿」(市指定の天然記念物)があり、鎌倉幕府を倒す立役者となった新田義貞の子義宗は、南朝の再興を願っていたが、上野国(群馬県)の戦いで敗れ、明德三年(千三百九十二年)に従兄弟の義治と共に伊予へ落ちのび、杖にしていた椿の杖を地面に突き立てた。【戦国時代の武将の杖から根が出て六百年…】の伝説の椿は、根回り五・一メートル高さ十メートルで円形に拡がって、大きさでは県内一の呼び声が高い大輪のヤブツバキである。

神道青年会

寄付者御芳名

神社庁助成金

(金二十万円也)

平成六年度助成金

平成六年度 寄付助成芳名

(金十万円也)

石 鎚 神 社

伊豫豆比古命神社長曾我部延昭殿

(金七万円也)

和 靈 神 社

三輪田元亮殿

(金五万円也)

愛媛県護國神社 波爾 莊殿

(金四万円也)

一宮 神 社 矢野 哲夫殿

(金三万円也)

日招八幡大神社 玉井 正素殿

大洲支部殿

(金二万七千円也)

多伎 神 社 宍伊予支部殿

(金二万円也)

嚴島 神 社 沼崎 守文殿

柳原 幸殿

宍和山支部殿

宍八幡支部殿

吉岡 太瑯殿

宍和島支部殿

三藏 王 神 社

宇内 美堯殿

加茂 明 神 社

池内 公和殿

益八幡 神 社

飯尾 宏隆殿

南 豫 護 神 社

前田 俊孝殿

石岡 伯 神 社

矢野 正実殿

廣 田 神 社

古谷 辰夫殿

三島 神 社

石川 晴通殿

(金六千円也)

武智 盛明殿

保内 神 社

矢野 直臣殿

(金五千円也)

浅海 宜英殿

明八幡 神 社

弘美殿

東 宮 神 社

八原 敬睦殿

大坂 神 社

川崎 嘉吉殿

岩 城 神 社

八原 敬睦殿

龍八幡 神 社

別府 聖治殿

高 濱 神 社

藤原 亮殿

三野 神 社

堀川 泰規殿

喜 多 浦 神 社

和磨殿

今宮 神 社

宮本 担殿

八 幡 神 社

矢野 宗保殿

玉生 神 社

平田 茂光殿

八 幡 神 社

安藤 潔殿

高生 神 社

佐藤 伊都男殿

八 幡 神 社

都築 芳憲殿

三子 神 社

井村 弘二殿

八 幡 神 社

都築 芳憲殿

荒木 神 社

西村 純子殿

八 幡 神 社

都築 芳憲殿

須賀 神 社

藤原 四郎殿

八 幡 神 社

都築 芳憲殿

雄沼 神 社

大宮 裕博殿

八 幡 神 社

都築 芳憲殿

波賀 神 社

高市 誠和殿

八 幡 神 社

高市 幸仲殿

桑原 神 社

石丸 典良殿

八 幡 神 社

高市 俊次殿

德川 神 社

武智 宣往殿

八 幡 神 社

高市 正健殿

八	湯	新	天	多	和	西	大	大	大	大
嶋	田	瀨	賀	靈	條	元	元	元	元	和
天	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
阿	菊	沖	宮	久	三	塩	大	大	大	武
部	池	中	本	保	瀨	出	野	野	野	智
重	國	譽	稚	凸	勝	光	勸	勸	賀	新
満	興	富	秋	丸	史	雅	藏	藏	久	殿
殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿

第二十三回 定時総会援助金

(金一 万円也)	和	愛	日	高
靈	媛	招	忍	
神	縣	八	日	
社	護	幡	売	
三	國	大	神	
輪	社	神	社	
田	社	社	社	
元	波	玉	後	
亮	爾	井	藤	
殿	莊	正	正	
	殿	素	宜	
		殿	殿	

(金一 万円也)	加	茂	神	社	池	内	公	和	殿
觀	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
月	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
神	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
楽	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
の	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
夕	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
べ	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
援	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
助	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿
金	茂	神	社	池	内	公	和	殿	殿

新年互礼会援助金

(金一 万円也)	和	靈	神	社	三	輪	田	元	亮	殿
伊	日	愛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
豫	招	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
豆	八	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
比	幡	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
古	大	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
命	神	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
神	社	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
社	社	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
長	玉	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
曾	井	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
我	正	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
部	素	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
延	殿	媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
昭		媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
昭		媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊
殿		媛	縣	護	國	神	社	波	爾	莊

御寄付を戴きました皆様、誠にありがとうございます。下記の活動のため、大切にに使わせて戴きます。

愛媛県神道青年会平成七年度 定例総会開催

五月十七日 於、国際ホテル松山

当日、神社庁長様、護國神社宮司様、神社庁松山支部長様、伊豫豆比古命神社宮司様、OBの方々を御迎えし、盛大に開催された。

又、去る三月六・七・八日の阪神大震災支援活動にて、大麻比古神社様、徳島県神道青年会様、伊豫豆比古命神社様、石鎚神社様、都築OB、各位に物心両面にて御助成を戴き、又、日程決定前には県内別表神社宮司様には、社務に障り無い限り、会員の出向

- ◎本年活動予定◎
- ◎会報「若竹」発刊
- ◎観月神楽の夕べ 開催
- ◎初詣案内ポスター作製
- ◎初詣啓蒙テレビスポット またはラジオ放送
- ◎新年互例会
- ◎定例総会
- ◎その他役員会 決議事項
- 特に、本年は
- ◎終戦五十年に際し、
- 護國神社慰霊祭 奉仕
- ◎同、神青協活動として
- 護國神社正式参拝

## 平成六年度決算書

## 歳入の部

項 目	本年度予算	本年度決算	比較増減	付 記
1 会 費	250,000	315,000	65,000	年度会費 新年互礼会費
2 助成金	200,000	200,000	0	神社庁
3 寄付金	1,350,000	1,296,000	△54,000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	19,086	53,169	34,083	預金利子 会報広告料
5 繰越金	680,914	680,914	0	
合 計	2,500,000	2,545,083	45,083	

## 歳出の部

項 目	本年度予算	本年度決算	比較増減	付 記
1 会議費	400,000	349,739	△50,261	総会 新年互礼会 その他会議
2 研修教化	500,000	347,112	△ 152,888	禊祓成 観月神楽 四県合研 その他
3 事業費	700,000	516,339	△ 183,661	初詣案内 (ポスター・スポット)
4 広報費	180,000	106,312	△73,688	29号 (6月号)
5 事務費	110,000	66,981	△43,019	切手 葉書 封筒 事務用品 振替手数料
6 備品費	10,000	0	△10,000	
7 旅 費	240,000	150,000	△90,000	中央総会補助
8 慶弔費	20,000	32,780	12,780	御祝金 電報
9 分担費	270,000	215,830	△54,170	神青協醸出金 四国地区醸出金 北方領土
10 雑支出	20,000	21,738	1,738	菓子
11 予備費	50,000	0	△50,000	
合 計	2,500,000	1,806,831	△ 693,169	

歳入合計 2,545,083円

歳出合計 1,806,831円

738,252円 (平成7年度一般会計へ繰込)

監査報告 上記各項目監査の結果、相違ないことを認めます。

平成7年 3月29日

監事 堀 司  
監事 井上 貞人⑤  
⑤



平成七年度予算 (案)

歳入の部

項 目	前年度予算	本年度予算	比較増減	付 記
1 会 費	250,000	250,000	0	年度会費 新年互礼会費
2 助成金	200,000	200,000	0	神社庁
3 寄付金	1,350,000	1,300,000	△50,000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	19,086	61,748	42,662	預金利子 会報広告料 還付金
5 繰越金	680,914	738,252	57,338	
合 計	2,500,000	2,550,000	50,000	

歳出の部

項 目	前年度予算	本年度予算	比較増減	付 記
1 会議費	400,000	400,000	0	総会 新年互礼会 その他会議
2 研修教化	500,000	500,000	0	四県合研 観月神楽 夏期セミ その他
3 事業費	700,000	700,000	0	初詣案内 (ポスター・スポット)
4 広報費	180,000	180,000	0	若竹30・31号
5 事務費	110,000	130,000	20,000	切手 葉書 封筒 事務用品 振替手数料
6 備品費	10,000	10,000	0	
7 旅 費	240,000	240,000	0	中央総会補助
8 慶弔費	20,000	40,000	20,000	御祝金 電報 その他
9 分担費	270,000	270,000	0	神青協醸出金 四国地区醸出金 北方領土
10 雑支出	20,000	30,000	10,000	菓子
11 予備費	50,000	50,000	0	
合 計	2,500,000	2,550,000	50,000	

歳入合計 2,550,000円  
歳出合計 2,550,000円

平成7年5月17日

愛媛県神道青年会

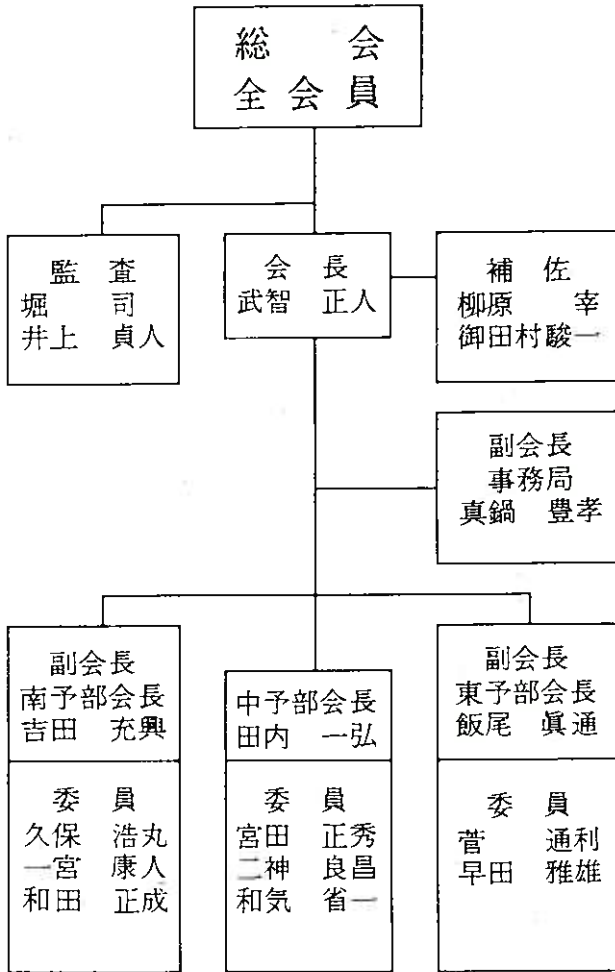
担当者が、会員の皆さんに、お電話させて頂く  
事があるかと思ひます。よろしく御願ひします。

平成七年・八年

愛媛県神道青年会

担当 函

氏名と共に記載の地名は、奉務先、又は、住所です。



	会 長
西条市 武智 正人	

		監 査			補 佐
北条市 井上 貞人		松山市 堀 司	松山市 御田村 駿一		松山市 柳原 幸

南 予	中 予	東 予
 <p>副会長・南予部会長</p>	 <p>副会長・事務局</p>	 <p>副会長・東予部会長</p>
<p>宇和町 吉田 充興</p>	<p>松山市 真鍋 豊孝</p>	<p>東予市 飯尾 眞通</p>
 <p>理 事</p>	 <p>中予部会長・理事</p>	 <p>理 事</p>
<p>宇和島市 久保 浩丸</p>	<p>松山市 田内 一弘</p>	<p>今治市 菅 通利</p>
 <p>理 事</p>	 <p>理 事</p>	 <p>理 事</p>
<p>保内町 一宮 康人</p>	<p>松山市 宮田 正秀</p>	<p>新居浜市 早田 雅雄</p>
 <p>理 事</p>	 <p>理 事</p>	 <p>理 事</p>
<p>宇和島市 和田 正成</p>	<p>砥部町 二神 良昌</p>	<p>砥部町 和気 省一</p>

# 編集後記

やつとの事で第三十号が完成しました。

今回は、皆様も良く御存知のように、昨年の異常湯水に始まって年明け草々の阪神大震災、地下鉄サリン事件、そしてオウム教強制捜査といったように様々な事が起こりました。

世紀末の中で色々と取沙汰されていますが、確かに納得出来る部分もあります。ここ数年の異常気象や、世界経済破綻、共産圏の瓦解といったように地球規模で様々な現象が起こっています。それに、我々神職を始めとする沢山の人の心もどんどん元の大筋から外れて、とても大切な事を忘れつつあるように思えてなりません。

オウム教の信者たちは、或る意味に於いては大変熱心です。統一がとれ、信じ切っている人が随分といます。例え

どうあれ、こういった姿勢は見習う価値が有るように思います。

今迄オウム教が行つて来た事は一般常識でみれば、また一宗教者としてみれば大変おかしい常軌を逸したものだとしか言えないと思います。しかし、当の本人たちはいたつて真面目です。私の知人にも元信者がいてたまに話したりしますが、確かに真面目です。

信仰というものは、本人が満足して修業出来ればそれでいいというものではないと思えます。本人だけでなく周りまでも幸せに、そして納得出来るものでなければならぬと思います。狂信では決していけないし、ましてや金儲けの為、のし上がるための道具とするのはもつてのほかだと思えます。

神の大御心に沿い奉る事こそが、そして生かし生かされている命の輪の一部分でしかないという事を自覚し、全ての存在に感謝する事こそがほんとうの信仰であり、我

々神道人の根幹を成すものと信じて疑いません。

超常現象などはわざわざ求めなくても心が神の心に叶った時には自然と起こるものに過ぎません。いわんや道具のために心を無くすなどとはもつてのほかだと思えます。

神職として、日本人として、これからどういふ姿勢で日々を過ごすかはお互いが良く考えてゆかなければならないと思えます。

## 事務局が

### 変わりました

松山市居相町三三七

椿神社 内

真 鍋 豊 孝

☎ 八九九一五六一〇三二一  
ファックス  
〇八九九一五六一三三三三

振替番号が変更しました。  
御注意下さい。

## 会員の皆様へ

### 年会費 五千元

#### 納入のお願い

神道青年会の会費納入率が五割を切りそうな状況です。会の活動のため、ぜひとも会費納入をお願いいたします。

県内各神社の皆様方、神道青年会活動に御理解御協力を戴き、ありがとうございます。本年度もぜひ、御協力下さいますよう御願い申し上げます。

愛媛県 神道青年会 会報

## 若 竹 年会費 五千元

事務局 二七九〇

松山市居相町三三七

伊豫豆比古命神社(椿神社)

FAX 五六一三三三三

編集者 千七九九一

東予市円海寺一九一

飯 尾 眞 通

電 〇八九八一六四一〇八九三

(FAX兼)

会費振替  
〇一六七〇一三三三三五八

愛媛県神道青年会